

令和6年度秋田県山本地域保健医療福祉協議会 要旨

1 開催日時 令和7年2月19日(水) 午後3時から午後3時50分

2 開催場所 山本地域振興局福祉環境部 2階大会議室 (能代市御指南町1-10)

3 出席委員(敬称略)

小野 正博、夏井 博文、檜森 定勝、楊 国隆、小林 聡、太田原 康成、熊谷 真理子、岩村 庄英、
貝田 直也、塚本 民雄 (委員16名中10名出席)

4 会長及び副会長の選任

会長には互選により楊国隆委員が選出され、副会長には会長の指名により小野正博委員が選任された。

5 議 事

楊会長が議長となり議事を進行した。

(1) 地域医療推進部会からの報告

(2) 救急・災害医療検討部会からの報告

合同開催した内容について、事務局から資料2により説明し、委員から次のとおり質疑、意見等があった。

(医師会 楊委員)

医師会では災害時緊急連絡方法について検討した結果、連絡ツールにラインを利用している。
30人あまりが登録している。

(歯科医師会 小林委員)

歯科医師会でも災害連絡網をつくり実験段階に入っている。メール一斉送信できる体制で、停電時でも対応可能なシステムである。

(3) 献血推進部会からの報告

事務局から資料3により説明し、委員から次のとおり質疑、意見等があった。

(医師会 楊委員)

少子高齢化により献血が減ってきている。献血は何歳まで可能か？

(事務局 佐藤副主幹)

64歳以下で献血したことがある場合は70歳到達前まで可能である。

(4) 令和6年度山本地域福祉環境部主要事業について

事務局から資料1により説明し、委員から次のとおり質疑、意見等があった。

(労働基準監督署 貝田委員)

事業主から、労働者・従業員のアルコール依存症について相談がある。

当署では雇用管理に関するところは説明できるが、依存症についての知識を持った相談員がいないため来庁者から相談があった時に対応に困ることがある。相談対応可能な機関等を記載した資料を提供いただけないか。

また、職域への健康教育について、当署でも各事業所へ健康診断の働きかけ等を行っており、そういったところで連携できる部分があるのではないかと。今後一緒に取り組むことが出来るのであれば、是非お声がけいただきたい。

(事務局 吉田次長)

依存症関係の相談機関は資料Ⅰにあるとおり、市町、精神科医療機関相談室、相談支援事業所、社会福祉協議会などで対応しており、保健所でも相談を受けている。相談の中で治療が必要だとなれば専門医療機関へ、経済的な問題等を抱えているなら福祉事務所等へ繋いでいる。相談機関個々のリーフレットはあるが、一覧のようなものはないため、今後作成するようであれば提供させていただきたい。

(事務局 永井部長)

出前講座を地道に行っている。アンケート結果を見ると、栄養食生活とか運動のニーズが高いが、割と歯科のニーズも高いようである。今年度、大塚先生に協力いただいて出前講座を実施した。歯科については、保健所で対応することもできるが、出来れば地元の歯科医師の先生にご協力頂ければと思っている。健康講座は労基署とも連携してやっていきたい。出前講座のニーズがあれば、是非保健所に連絡いただきたい。

(医師会 楊委員)

依存症の人が増えている印象がある。管内で公的機関や民間で運営している依存症の矯正施設はあるのか？

(事務局 吉田次長)

断酒会、マック等が該当すると思われるが、能代山本管内にはない。

(医師会 楊委員)

病院への受診することは、もちろん可能であるが、矯正施設等で継続して通所・入所して支援・指導できるようなところがあれば良いと思う。

(能代更生医療センター院長 太田原委員)

アルコール依存症の患者で、対応に苦慮している方がいる。単身で相当量の飲酒をした状態で救急搬送されてくる。対応方法について医療相談員が中心となって様々な機関に相談しているところである。経済的な問題について市役所に相談したり、精神科の医師に関わってもらったり、家族や関係者で考えても解決策を見いだせない状況である。本人は寂しい思いを酒で紛らわし、病院で治療しても寂しくなればまた飲酒をする。その繰り返しである。関係者がそれぞれの立場で協力して支援しようとしているが解決に至っていない現状である。

(医師会 楊委員)

こういった問題はすぐに解決策を見いだすことは難しいと思う。